

# 石多夫妻 29日、初の合同リサイタル

天正遣欧使節の若者4人の生き方をテーマにした創作歌劇「忘れられた少年」などで知られる特定非営利活動法人（NPO法人）東京オペラ協会の代表兼芸術監督、石多エドワードさん（61）と、妻で声楽家、加代子さんの初のジョイントリサイタルが29日午後6時から佐世保市三浦町、アルカスSASEBOで開かれる。多くの人に気軽に楽しんでもらおうと活動する2人が、オペラとともに歩んできた道を歌い上げる。

クラシック音楽の表現力に感動し武蔵野音大音楽科に進学したエドワードさんは卒業後の1976年、「新しい総合芸術活動」を目指し、東京オペラ協会の前身である「グループ潮」の創設メンバーに加わり、そのまま代表に。協

オペラプラザ長崎などのメンバーと練習に励む石多夫妻  
＝波佐見町総合文化会館

## オペラを楽しむもう

会は▽オペラによる国際交流▽プロアマ、年齢、障害の有無などに関係なく誰もが参加し楽しめるよう工夫したユニバーサルデザインオペラを活動の柱にしてきた。

曲を日本語で歌うのをはじめ、街中の小さな広場で10人ほどで公演する「街角オペラ」、モーツァルトの「魔笛」



Local Zoom

のミュージカル仕立て、ベイトーベンの第9のオペラ化など新しい試みに次々と挑戦。一方、90年制作の「忘れられた少年」は国内外で計120回公演し、来年9月にはドイツ・イタリア巡演を予定。日中合作の「徐福伝説」、日比合作の「高山右近」といった



## アルカスSASEBO 心を結ぶ歌の力知って

作品も手掛けてきた。

日本人の父とスペイン系フイリピン人の母を持ち大阪市生まれのエドワードさんと、東彼波佐見町出身で佐世保北高卒の加代子さんの出会いは約40年前の武蔵野音大音楽科時代。同じクラブの先輩後輩として。加代子さんは「いつもハッパを掛けられている」エドワードさんと同じ目的に向かって歩き続け、東京オペラ協会九州支部長や協会の本県支部・オペラプラザ長崎の代表なども務めている。

リサイタルは「世界の人の心と結び合える歌の力を知ってもらうため」企画。1部では2人のそれぞれの人生、2部ではクラシック音楽の素晴らしさ、3部はエドワードさんの曲をじっくり聴いてもらう構成で、約100曲から約30曲を厳選したという。「加代子の歌唱力を広く県民に知ってもらう機会になれば」（エドワードさん）、「これを機にもっと頻繁にコンサートを開いていきたい」（加代子さん）と話している。

入場料は大人3千円、学生2千円、高校生以下千円、指定4千円。オペラプラザ長崎（電0956・85・2027）。

（佐世保支社・石田謙二）